

人権問題”という世界の象徴的な問題に焦点が当てられがちだが、今日の特別講義を聞いて日本における立憲主義が揺らぐような人権問題が多く存在することが改めて分かった。特に入国管理局における難民認定等の問題に関しては、技能実習生の扱いの問題と並行して今後も議論されなければならないと感じている。前期にゼミで、自由権規約の主に18条宗教の自由・21条集会の自由に関する人権侵害を題材として模擬裁判をしていたのだが、欧州人権裁などにおける個別の判例を見ていく中で、公共の安全や他者の基本的な権利等の保護のためにはやはり法律で制限されてしまう（もちろんここでは均衡性や、正当な目的の存在が考慮されるのだが）ことを学んだ。入国管理局における暴力は明らかに人権侵害であるとは思いますが、難民受け入れに関しては、特にそのバランスを考えるのが難しいと感じた。島国であり、かつ宗教的な問題に関しても疎いであろう日本だからこそ、余計に議論が進んでないのではないかと思う。

日本は先進国であるということで、なんとなく人権問題もそれなりに対処してきていて人権に関する個別の議論もうまく進んでいるのではないかと、思い込みがちだ。しかし、それは間違った認識・理解で、身近に問題はたくさん隠れていることを藤田さんの講義を聴いて、改めて実感した。これからも世界だけでなく、日本のニュースをも注視していきたいと思う。

横浜市立大学2年生